

Citation 3

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-168404

⑫ Int.Cl.
A 45 D 33/26

識別記号
厅内整理番号
6671-3B

⑬ 公開 昭和60年(1985)8月31日

審査請求 未請求 発明の数 3 (全6頁)

⑭ 発明の名称 延自在のアプリケータを備えた化粧用コンパクトとその使用方法

⑮ 特願 昭59-75664

⑯ 出願 昭59(1984)4月14日

優先権主張 ⑰ 1983年4月14日 ⑲ 米国(U.S.) ⑳ 484757

㉑ 発明者 デビット セイドラー アメリカ合衆国 ニューヨーク州 フォレスト ヒルズ
109番 ストリート 69-10

㉒ 出願人 レブロン、アイエヌシ アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク フィフ
ス アベニュー 767

㉓ 代理人 弁理士 三好 保男

明細書の序文(内容に変更なし) 明細書

1. 発明の名称

延自在のアプリケータを備えた化粧用
コンパクトとその使用方法

2. 特許請求の範囲

(1) 切り込み部を備えた壁と、その壁に対向して平行に配置された壁と、上記第2の壁に対して一定の角度を持つて設けられた中底とから成る容器、およびアプリケータと、そのアプリケータを延出させる手段とを有するハウジングとから成り、上記延出手段が、上記ハウジングと容器とを係留せしめるために上記壁の切り込み部と係脱自在となつていていることを特徴とするコンパクト。

(2) 第2の壁を中底に対して回動させるために上記容器に形成されたヒンジ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(3) 上記容器の中底に一体に取り付けられた鏡をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(4) 上記容器の中底上の空間に上記ハウジングを固定するために、上記ハウジングに形成された第1のたな手段と、上記容器に形成された第2のたな手段とをさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(5) 上記容器中の化粧品を保持するバン手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(6) 上記延伸手段を上記ハウジングの壁に沿つて移動させるために上記壁に配設されたトラック手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(7) 上記アプリケータと延出手段とを連結させるために上記ハウジングの内側に配設されたスライド手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(8) 上記スライド手段と係合するため上記ハウジングの内側に配設されたノッチ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第7項に記載のコンパクト。

(9) 上記ノゾチ手段と係合するために上記スライド手段に設けられたニブ手段をさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第8項に記載のコンパクト。

(10) 上記スライド手段が、I字形をしており、上記ニブ手段を運ぶための脚手段と、上記アプリケータを安定させるための支持手段とを有することを特徴とする特許請求の範囲第9項に記載のコンパクト。

(11) 上記支持手段は、上記延出手段が上方に押し出される時に、上記脚手段を後方に曲げる切り込み手段を有していることを特徴とする特許請求の範囲第10項に記載のコンパクト。

(12) 上記ハウジングを把持するため前記2つの壁に切り込まれた斜裁部手段と、上記中底を係止させるため上記容器に形成された第3の脚手段とをさらに有することを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のコンパクト。

(13) 低い側壁と、上記低い側壁へ向つてスロープしている斜裁部を有する平行に対向する2つの

壁と、上記低い側壁と平行に対向している高い側壁と、中底と、上記4つの壁の間において中底上方に設けられた空間とから成る容器、およびアプリケータと、上記4つの壁の間における中底上方に設けられた空間で容器とアプリケータとを係止させる手段と、上記ハウジングを上記4つの壁の間における中底上方の空間から離脱自在に把持するために上記2つの壁の斜裁部上に現出される部分を有する側壁とから成るハウジングから成ることを特徴とするコンパクト。

(14) 上記容器の高い側壁が、その上端の下方にたなを有し、上記斜裁部を有する2つの壁の内1つが切り込み部を有することを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載のコンパクト。

(15) 上記ハウジングの係止手段が、上記アプリケータを伸出する手段と、上記容器の高い側壁の上端の下方で上記たなと係合するために上記アプリケータ用の開口部の一端に沿つて配設されたたな手段とを有し、上記延出手段が、上記斜裁部を有する2つの壁の内の1に設けられた切り込み部

(3)

と係脱自在となつていていることを特徴とする特許請求の範囲第13項に記載のコンパクト。

(16) コンパクトを用いる方法にして以下の工程から成ることを特徴とする方法：

化粧容器とアプリケータハウジングとを連結するため切り込み係止手段をアンロックする；

アプリケータとアプリケータハウジングとを連結させるためスナップ係止手段をアンロックする；

閉じられた状態で化粧容器を保持するくさび係止手段をアンロックする；

(17) 上記スナップ係止手段をアンロックする工程が、さらにアプリケータをアプリケータハウジングから延出させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第16項に記載の方法。

(18) 上記くさび係止手段をアンロックする工程が、鏡を有する少なくとも1つの底を容器に設けられたヒンジの回りを回転させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第16項に記載の方法。

(19) 上記くさび係止手段をアンロックする工程

(4)

が、容器中の鏡と化粧品を使用するために現出させる工程を含むことを特徴とする特許請求の範囲第16項に記載の方法。

(20) 上記少なくとも1つの底を回転させる工程が、さらに上記底に一定の角度を持つて連結されている壁をヒンジを中心にして回転させることを特徴とする特許請求の範囲第18項に記載の方法。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の背景〕

本発明は、新規で改良された化粧用コンパクトの構造と意匠に関し、特に延自在のアプリケータを備えたコンパクトと、その使用方法に関するものである。

〔先行技術の説明〕

基本的には、従来の技術では、安価で、機能的で且つ小型の化粧用コンパクトを作ることが問題とされてきた。例えば、英國特許第310139号、米国特許第2442541号、米国特許第3442414号及び米国特許第3729011号に、その様な従来技術を見ることができる。

(5)

-20-

(6)

〔発明の要約と目的〕

基本的に、本発明は、直観で高い機能を持ち、安価なプラスチック構造のコンパクトの為になされた。そして、本発明になるコンパクトは、小型となつてゐるが、使用する上で充分の大きさのアプリケータと、充分の量の化粧品を備えている。

本発明の第1の目的は、その底部にパウダー又はクリーム等の為のコンテナと、リビングヒンジによつてコンパクトに取り付けられた蓋部と一体となつた鏡と、側壁に沿つて摺動するボタンによつてハウジングから推し出すことのできるブラシ型のアプリケータを駆置する為に鏡の上に設けられた空間部分を有するコンパクトを提供することである。

本発明の第2の目的は、コンパクトを使用する為の新規な方法を提供することである。この方法は、下方切り込み係止、スナップ係止及びウエッジ係止に関する3つの係止解除ステップを含んでゐる。その詳細は、以下の説明で述べられる。

〔好適な実施例の説明〕

(7)

れたボタン4を、ハウジング2の側壁16に沿うトラック5内で摺動させることによつてなされる。さらに、第2図には、開口状態の底部コンテナ1が示されている。約90°で互に一体的に接続された背壁7と中間床部8は、化粧品又はパウダー11と鏡10を露出させて使用できる様に、リビングヒンジ9の回りを回転した状態となつてゐる。背壁7は、指で操作して鏡10の角度を調節できる機能を持つてゐる。

スライド13の横断支持部材27に、ブラシ3の補強基部6が簡便に保持されているのを見ることができます。その他の詳細については、このコンパクトの操作の説明によつて、完全に述べられる。

このコンパクトの構成には、係止一係止解除の3つの特徴点が含まれてゐる。第1図及び第2図に見られる様に、コンテナ1の右側の前壁14の上端に沿つて、ハウジング2のトラック5から突出するボタン4に係合する為の、下方切り込み部15が設けられてい。そして又、第3図に良く見ら事ができないからである。どの実施例でも、

第1図を参照すれば、底部コンテナ1と頂部アプリケータハウジング2を有するコンパクトが示されている。ハウジング2の内部に、アプリケータが部分的に示されている。このアプリケータは、好ましくは、ハウジング2の側壁16に沿つて形成されたキー溝又はトラック5内をスライドするキー又はボタン4によつて延出自在となつてゐるブラシ3である。ブラシ3の為の開口部の上縁部分にはたな22が設けられている。底部コンテナ1は、側壁27、背壁7及び中間床部8を含み、この背壁7及び中間床部8は、リビングヒンジ9の回りで回転可能である。底部コンテナ1は、さらに、下方切り込み部15を備えた前壁14と、側壁23を含んでゐる。この背壁7と前壁14は、互に対向していると共に互に平行である。壁7、14は、又、低い側壁23の高さ程度迄、斜めに下つてゐる斜面部24を有してゐる。

第2図には、ハウジング2から完全に延出した状態のブラシ3が示されている。ブラシ3の延出は、ブラシ3の補強基部6へ間接的に取り付けら

(8)

コンテナ1がその閉状態にある時は、化粧品11を漏れたりコンパクトの他の部材を汚したりしない様に、鏡10によつてシールされる。鏡10とパン12の上端間に、僅かな空間が設けられ、これによつて、化粧品11が直接鏡10に接触しない様になつてゐる。

第5図と第6図を参照すれば、ブラシ3が延出する頂部ハウジング2の内部を詳しく見ることができる。例えば、ボタン4が取り付けられたI型

第3図及び第4図を参照すれば、コンパクトの内部の構成を詳細に見ることができる。側壁27の背面側の頂部縁部下のたな26は、ハウジング2の頂部縁部上のたな22と係合する。さらに、例えば化粧品11は、コンテナ1内部の置き替え可能なパン12内に詰められてゐる。選択的に、化粧品11は、パン12を使用しないでコンテナ1内に直接収めても良い。しかしながら、この様な方法は好適ではない。なぜなら、この場合パン12内に化粧品11を用意した様に、化粧品11を容易に取り替えるこれる如く、ハウジング2の

たな22は、コンテナ1の側壁2¹³の頂部縁部のたな26の下で係合している。このアセンブリは、コンテナ1とハウジング2の為の、第1系止特徴部分を備え、下方切り込みを用いた係止方法に関する。

第4図に良く見られる様に、背壁7と、下部に鏡10が取り付けられた中間床部8は、互に90°をなして固く成形されており、これによつて、ブラシ3の為のハウジングが、それから外れてしまうのを防止している。背壁7と中間床部8は、コンテナ1の前壁に対向して、ハウジング2を摩擦接合によつて閉じ込めている。機能的には、この第2の係止特徴点は、コンテナ1の内部にハウジング2を固定することの他に、中間床部8をそこに取り付けられた鏡10と共に、コンパクトが閉状態にある時の位置に、しつかりと係止することを含んでいる。

この第2の係止特徴点は、中間床部8の自由端が、第4図の右側に示されている様に、コンテナ1の内側のたな21に対して接触した時に、良く見ることができ、ウエッジ係止として関係付けら

れる。

第5図及び第6図を参照すれば、ハウジング2の側壁16の内側には、第1図及び第2図に見られるキー溝又はトラック5の僅か上に、少なくとも2つのノッチが切り欠かれている。ここで、第3図及び第4図の右側に、ノッチ17を見ることができる。第5図及び第6図から明らかに如く、ノッチ17のいづれか一方と係合したり、係合解除したりする為に、先端部分18は、I型スライド13の1の1つの脚部19から延びていると共に、これと一体的に形成されている。小さな下方切り込み部20は、I型スライド13内の脚部19のすぐ上に形成されており、これによつて、コンパクトの使用者がキー又はボタン4を押した時にいつでも、脚部19は、容易にその先端部18を、ノッチ17内へ或はノッチ17の外へ曲げることができる。この第3の係止特徴点は、スナップ係止として関係づけることができる。

このコンパクトの使用に関して、詳細に説明する。完全に閉状態にあるコンパクトを示す第3図

01

の説明から始める。最初に、使用者は、コンパクトを開ける為に、ボタン4を右側へ押す。このボタン4が、右側端迄達した時、使用者はコンテナ1の斜坡部24の上に露出した両側壁16の部分を指でつまむ、そして、ハウジング2の底部4が、コンテナ1の下方切り込み部15を通り過ぎ、ハウジング2のたな22が、コンテナ1のたな26から外れる様に、ハウジング2を上方へ持ち上げる。従つて、第1図に示す如く、コンテナ1の中間床部8上方から離れて、下側壁23の上方へハウジング2を取り外すことができる。これで、第1の係合解除ステップは終わり。

第5図及び第6図の右側に示されている如く、ボタン4は、先端部18がノッチ17から外れる様に内側へ押し込まれる。下方切り込み部20は、脚部19を後ろ側へ曲がれる様にしている。これにて、第2の係合解除ステップは終わり。

使用者は、第2図に示されている様に、ボタン4がトラック5の左端部で止まる迄、ハウジング2の側壁16に形成されたトラック5に沿つてが

02

タン4を押すことによつて、ブラシ3を推し出す(第6図参照)。これによつて、ブラシ3は、完全に伸出される。ここで、第6図を参照すれば、ブラシ3は、その動きは安定していることが分る。なぜなら、その補強基部6は、I型スライド13の横断支持部材に支持されているからである。そして、使用者が、左側のノッチ17内に先端部18が入り込む様に、ボタン4を離すと、ブラシ3は、その完全に伸出した位置に係止される。

ここで、第1図を参照すれば、使用者が背壁7の内側を押せば、中間床部8は内側たな21から外れる(第4図参照)。第2図に示されている如く、好ましくは互に一体的に形成される背壁7と中間床部8は、その開状態まで、リビングヒンジ9の回りに約90°或いはそれ以上の角度だけ反対側へ回動する。これで、第3の係止解除ステップは終り。

これにて、中間床部8の下面に取り付けられた鏡10と化粧品11は、夫々使用される状態で完全に露出した。ハウジング2を持つた使用者は、

ブラシ3の端部を、化粧品11内に軽く叩いて、化粧品を好きな箇所に塗ることができる。このコンパクトは、スナップ係止、ウエッジ係止及び下方切り込み係止を含む3つのステップを逆の順序で行なうことによつて、再度係止して閉状態にされる。

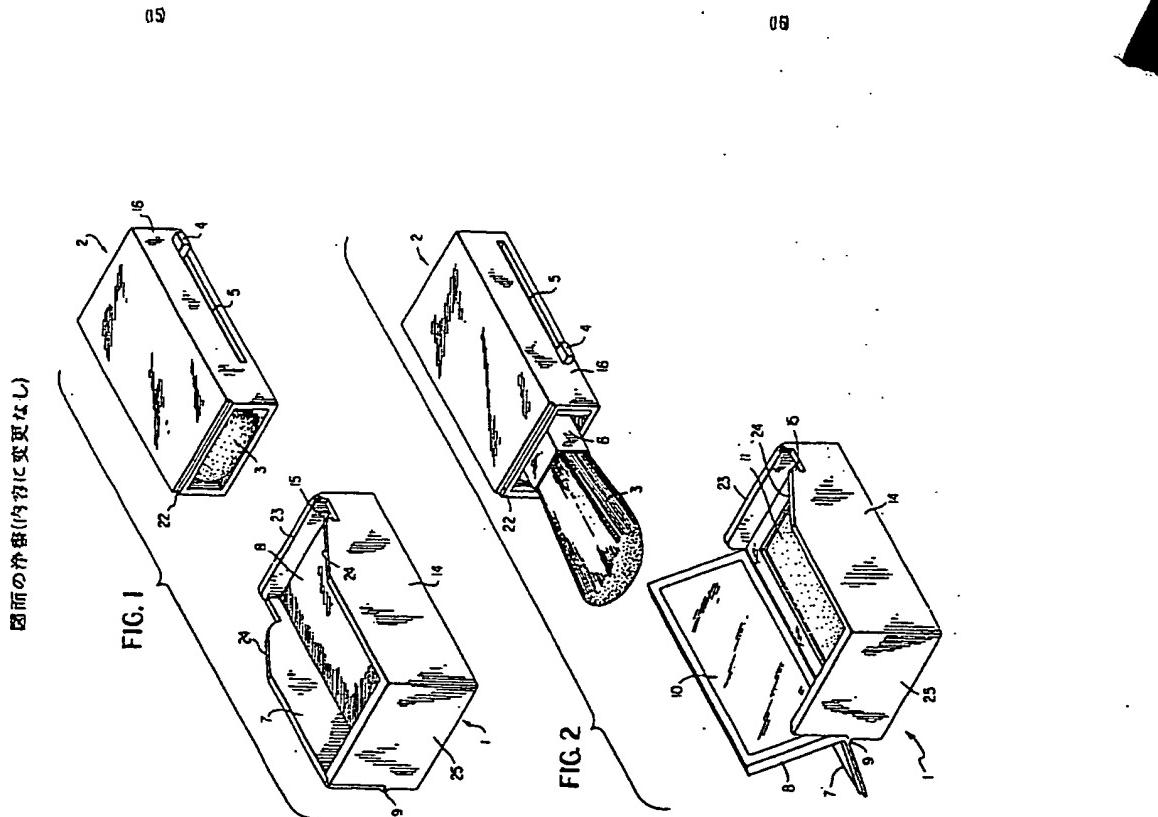
このコンパクトの為の図面及び説明は、この発明の構成及び形状を限定するものではない。従つて、特許請求の範囲に包含されている基本的な概念から導き出せる多くの変形例等が考えられることはいうまでもない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、アプリケータを内蔵した部分と、蓋を開閉した状態の底部分を分解した分解したコンパクトの分解斜視図、第2図は、アプリケータを容器から探し出し、コンテイナの蓋を開いて、使用可能な状態にした時のコンパクトの分解斜視図、第3図は、コンパクトが閉状態にある時の一部切裁縦断面図、第4図は、閉状態のコンパクトの側部断面図、第

5図は、ハウジング内に、アプリケータを収納したコンパクトの頂部断面図、第6図は、ハウジングから延出したアプリケータを備えたコンパクトの頂部断面図である。

代理人弁理士 三好保男



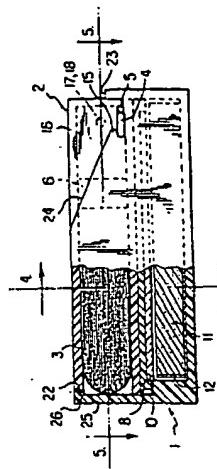


FIG. 3

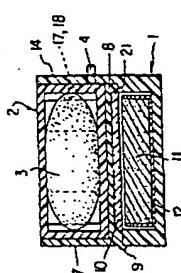


FIG. 4

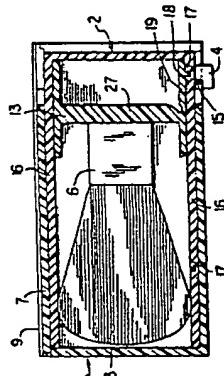


FIG. 5

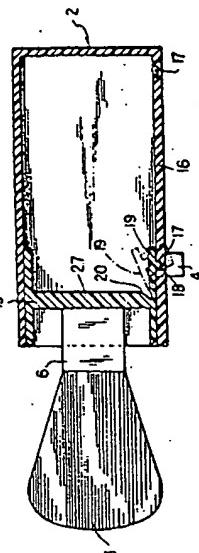


FIG. 6

手続補正書

昭和60年3月8日

特許庁長官 志賀 学 鋼

1. 事件の表示 昭和59年 特許第75664号

2. 発明の名称 延出自在のアプリケータを備えた化粧用コンパクトとその使用方法

3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人住所（居所） アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク
フィフス アベニュー 767

氏名（名称） レブロン、インコーポレイテッド

4. 代理人
住所 〒105 東京都港区虎ノ門1丁目2番3号
虎ノ門第一ビル5階

電話 東京 (504) 3075・3076・3077番

氏名 弁理士 (6034) 三好 保男

5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日
(発送日 昭和 年 月 日)

6. 補正の対象

- (1) 願書の特許出願人の代表者の欄
- (2) 願書の前記以外の代理人の欄
- (3) 明細書
- (4) 図面
- (5) 委任状及び同訳文

7. 補正の内容

- (1) 訂正願書（補正の対象に記載以外変更なし）
- (2) 明細書の添付（内容に変更なし）
- (3) 図面（内容に変更なし）
- (4) 委任状及び同訳文の提出

8. 添付書類の目録

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 新規 | 1通 |
| (2) 明細書 | 1通 |
| (3) 図面 | 1通 |
| (4) 委任状及び同訳文 | 各1通 |

BEST AVAILABLE COPY